

南水(なんすい)

登録番号：第2293号

登録年月日：平成2年6月13日

登録者：長野県(長野市南長野字
幅下692-2)

育成者：三浦小四郎 宮下忠博
堀 親郎 赤羽二三男

三木昌平 牧田 弘

今川博司 塩沢淳一

島津忠昭 白田 彰

上沼義人 大嶋由治

来歴：「越後」と「新水」の交雑実生

特性

■栽培特性

樹姿は、直立性と開張性の中間であり「新水」に似る。樹勢はやや強く、枝の発生密度はやや少ない。枝梢の太さは太く、節間長は中で充実し「新水」に似る。短果枝の着生は多く、短果枝の花芽は長楕円形で「新高」に似る。

花芽の大きさは中程度でりん片の色は淡褐色。短果枝の維持は良好であり、前年着果した果そうでも盲芽になることは少なく花芽の着生が認められる。えき花芽の着生は「二十世紀」と同程度で少ない。「新水」と同様に太枝の基部から強い徒長枝の発生があり、その伸びも旺盛である。新梢先端の幼葉は赤色を帯び「新水」に似る。

開花始は「豊水」と同程度であり、育成地(下伊那郡高森町)で4月21日である。

交配和合性は、「新水」、「幸水」、「豊水」、「二十世紀」、「ヤーリー」、「筑水」、「八里」、「ゴールド二十世紀」とは相互に高く、「新星」、「ラ・フランス」とは低い。

■果実特性

果形は扁円形で「新水」、「幸水」に似ており果形指数(縦径/横径)は0.79と低い。

効果時は「新星」のように先端がやや尖り、有てい果の比率が高いが、満開2か月後頃からは扁円形になり有てい果が目立たなくなる。果皮色は黄褐色で「長寿」に似る。果肉の色は白色で黄色味はなく雪白色に近い。肉質は中程度で「新水」より密であるが、「幸水」、「豊水」より粗い。果実の大きさは平均360~380gくらいで中玉で玉揃いは良好である。果実の糖度は屈折計示度で14~15%であり甘味が強いことが大きな特徴であり、果汁も多く食味良好である。日持ち性は室温で3週間くらいであり、氷温冷蔵庫を利用すればおよそ5か月間程度の長期貯蔵が可能である。

収穫期は、育成地で平均9月26日で「豊水」、「二十世紀」より遅く「新星」より早い。満開日から収穫始までの日数は平均156日で、「豊水」より10日遅い。

■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

黒斑病には「新水」と同程度でやや弱い。秋雨前線が通過する9月上旬は、黒斑病の発生が多くなるため防除を徹底する。また、防菌袋の果実袋の使用が有効である。

黒星病に対しては極めて強い。ナシえそ斑点病に感受性があるため高接ぎ更新の場合は、ウイルスの有無を検定することが必要である。栽培に当たっては、頂部優勢性が強いので側枝の発生に留意する。着果は、2番ないし3番果でなるべく大きい果実を残すことが良品生産につながる。1番果は大きくなるが、果面に条溝の発生が多く、さらに果柄が短かいため枝ずれなどによる品質の低下が見られる。

■地域適応性

黒斑病多発地域での栽培には留意する。また、収穫期が9月25日以降となる晩生種なので成熟期に低温になる地域は好ましくない。

(牧田 弘)